

第 21 回

日米知事会議議事録

PROCEEDINGS OF 21ST
JAPAN-U. S. GOVERNORS' CONFERENCE
IN TOKYO, NOVEMBER 1992

(付)

アメリカ州知事団滞在日程

平成4(1992)年11月

全 国 知 事 会

写真あり

第 21 回日米知事会議 (1992. 11. 17 都道府県会館にて)

写真あり

塩川自治大臣表敬訪問 (1992. 11. 18)

写真あり

渡部通商産業大臣表敬訪問 (1992. 11. 18)

は し が き

1 経 過

第 21 回日米知事会議については、平成元年（1989 年）11 月ワシントン D.C. での第 20 回日米知事会議において、平成 3 年（1991 年）東京で開催することとされ、本会としてもこの開催に向けて諸準備を進めてきたところ、同 3 年 10 月初めにアメリカ側から訪日知事団の編成が困難なこと、費用について連邦補助金の確保が難しいことなどから、急拠本年（平成 4 年）に延期されたものである。

本年のこの会議の開催に際しても、連邦補助金の問題や 1992 年 11 月初めに行われるアメリカ大統領選挙との関係等から、アメリカ知事団の編成が危惧されていたが、少なくとも数名の訪日知事が見込まれるとのこともあって準備を進めてきた。しかし、同年 10 月になり、全米知事会から訪日知事団メンバーがミネソタ州知事のみという連絡があったので、更にもう 1 年延期することは如何かということもあり、敢えて本年開催することとなったものである。

2 概要

アーニー・H・カールソン・ミネソタ州知事をはじめとするアメリカ知事団一行は、11 月 15 日（日）来日し、11 月 17 日に鈴木東京都知事を表敬訪問したのち、午後第 21 回目の日米知事会議に出席し、日本側知事団と意見交換を行い、翌 18 日には塩川自治大臣、渡部通商産業大臣、柿澤外務政務次官を表敬訪問したほか、通商産業省幹部、日本貿易振興会幹部との懇談を行った。また、18 日から 22 日にかけては、荒巻京都府知事と佐々木秋田県知事を表敬訪問し、関係者との懇談、各府・県内の各種施設等を視察して全日程を終了し、11 月 22 日（日）帰国した。

11月17日の第21回日米知事会議においては、来賓として穂積自治政務次官、林外務省官房長、ブリアー在日アメリカ合衆国公使の挨拶の後、議長に鈴木全国知事会会長を選出し、「日米親善の推進について」を議題に採択、これに対する両国知事の報告、意見交換等の活発かつ有意義な会議を持った。

なお、この会議において、「両国知事の相互訪問が、両国国民間の友好の増進に大きな寄与をし続けるとともに、世界の平和と協調を推し進めるものであることを認識」し、この「事業を今後も継続し、発展させて行くため、ともに努力する」などを内容とする共同声明を採択するとともに、次回の交流については「全米知事会として1994年（平成6年）に日本全国知事会代表団をアメリカへ迎え、第22回目の交流事業を行いたい」旨のカーソン・ミネソタ州知事のステートメントがあった。

目 次

第 1	来日アメリカ知事団名簿	1
第 2	出席者名簿	3
第 3	第 21 回日米知事会議次第	4
第 4	会議概要	5
1	日本知事代表歓迎挨拶（鈴木全国知事会会長）	5
2	アメリカ知事代表挨拶（カールソン・ミネソタ州知事）	7
3	来賓挨拶	11
①	穂積自治政務次官	11
②	林外務大臣官房長（渡辺外務大臣挨拶代読）	12
③	ブリアー在日アメリカ合衆国公使 （アーマコスト在日アメリカ合衆国大使メッセージ代読）	13
4	討 議	15
(1)	議題「日米親善の推進について」	15
①	報 告	15
1)	佐々木秋田県知事	15
2)	カールソン・ミネソタ州知事	17
②	意見発表	21
1)	北村青森県知事	21
2)	竹内茨城県知事	23
3)	荒巻京都府知事	25
(2)	意見交換発言要旨	28
5	共 同 声 明	33
	共同声明文（日本文・英文）	33

6 閉会挨拶	38
① 荒巻京都府知事	38
② カールソン・ミネソタ州知事	38

〔付 録〕

アメリカ知事団滞在日程	41
-------------	----

第 1 来日アメリカ知事団名簿

Official Members of U.S. Gubernatorial

Delegation under the Japan U.S. Governors'

Exchange Program 1992

ミネソタ州知事 アーニー・H・カールソン

Governor Arne H. Carlson, Minnesota

同 夫 人 スーザン・カールソン

Mrs. Susan Carlson

全米知事会 経済開発・通商委員会担当部長 シャリリン・W・コーワン

Ms. Charilyn W. Cowan

Director of the Economic Development and Commerce Committee

National Governors' Association

同 行 者

(People of Minnesota Who Traveled Together)

ミネソタ州貿易・経済開発局長 ピーター・ジレット

Mr. Peter Gillette, Commissioner

Department of Trade and Economic Development

同 夫 人 スコッティ・ジレット

Mrs. Scotti Gillette

ミネソタ州政府貿易局代表 ジョージ・クロリック

Mr. George Crolick, Executive Director

Minnesota Trade Office

ミネソタ州知事秘書 メリー・トマス

Ms. Mary Thomas, aide to the Governor

ミネソタ州政府貿易局対日貿易部代表 イレーヌ・ラトガーズ

Ms. Irene Rutgers, Japan Trade Representative

Minnesota Trade Office

ミネソタ州政府貿易局駐日代表 山下 宏

Mr. Hiroshi Yamashita, Hon. Representative

Minnesota Trade Office Japan

ミネソタ州政府貿易局関西特別代表 山岡 万佐子

Ms. Masako Yamaoka, Special Representative

ミネソタ州政府貿易局駐日代表事務所 宮崎 和子

Ms. Kazuko Miyazaki, Administrative Assistant

Minnesota Trade Office

アメリカ知事団地方視察旅行（11月18日～22日）日本側同行者

全国知事会 渉外部長 柳田 躬嗣

〃 渉外部参事 金岡 和男

通 訳 三園 みさほ

第 2 出席者名簿

1 日本側

青森県知事 北村正哉
秋田県知事 佐々木喜久治
東京都知事 鈴木俊一（全国知事会会長）
群馬県知事 小寺弘之
茨城県知事 竹内藤男
京都府知事 荒巻禎一（全国知事会副会長）
全国知事会
事務総長 砂子田 隆

2 米国側

ミネソタ州知事 アーニー・H・カールソン
全米知事会 経済開発・通商委員会担当部長 シャリリン・W・コーワン
(随員)
ミネソタ州貿易・経済開発局長 ピーター・ジレット
ミネソタ州政府貿易局代表 ジョージ・クロリック
ミネソタ州政府貿易局
対日貿易部代表 イレーヌ・ラトガーズ

3 来賓

自治政務次官 穂積良行
外務大臣官房長 林 貞行
在日アメリカ合衆国公使 ウィリアム・T・ブリアー

[会議通訳]

佐藤雅子（サイマル・インターナショナル）
キャスリン・スターリング（ " ）

第 3 第 21 回日米知事会議次第

平成 4 年 11 月 17 日 (火) 午後 2 時

都道府県会館 別館 211 号室

1. 開 会 宣 言 (砂子田全国知事会事務総長)
2. 日米両国知事紹介 (鈴木全国知事会会長
カールソン・ミネソタ州知事)
3. 日本知事代表歓迎挨拶 (鈴木全国知事会会長)
4. 米国知事代表挨拶 (カールソン・ミネソタ州知事)
5. 議 長 選 出 (鈴木全国知事会会長)
6. 来 賓 挨 拶
 - (1) 自 治 省 (穂積自治政務次官)
 - (2) 外 務 省 (林外務大臣官房長)
 - (3) アメリカ合衆国大使館 (ブリアー在日アメリカ合衆国公使)
7. 議 題 の 採 択
日米親善の推進について
8. 討 議
 - ① 両国知事報告 (佐々木秋田県知事
カールソン・ミネソタ州知事)
 - ② 両国知事意見発表
9. 共 同 声 明
 - ① 提 案 (米国知事代表) (カールソン・ミネソタ州知事)
 - ② 採 択
10. 両国知事代表閉会挨拶
 - ① 日本知事代表 (荒巻京都府知事)
 - ② 米国知事代表 (カールソン・ミネソタ州知事)
11. 閉 会 宣 言 (砂子田全国知事会事務総長)

第 4 会 議 概 要

1 日本知事代表歓迎挨拶

全国知事会会長

東京都知事 鈴木 俊一

第 21 回日米知事会議の開催に当たり、日本の都道府県知事を代表してご挨拶申し上げます。

まず最初に、このたびはビル・クリントン・アーカンソー州知事におかれましては第 42 代のアメリカ合衆国大統領にご当選されましたことを日本の都道府県知事一同心からお祝い申し上げます。

さて、ご来日のカールソン・ミネソタ州知事さんにおかれましては、公務きわめてご多端の折にもかかわりませず、全米知事会を代表されてわが国をご訪問されましたことに対しまして心から謝意と歓迎の意を表するものでございます。

本日はご来賓といたしましてご多忙のところ、自治省から穂積自治政務次官に、外務省からは林官房長に、またブリアー在日アメリカ合衆国公使のご臨席のもとに、日本とアメリカの双方の知事のご参加を得まして、ここに日米知事会議を開催することができましたことは、私どもにとりまして大きな喜びでございます。

この会議は、日本とアメリカの知事の相互訪問として、1962 年（昭和 37 年）に開催して以来、丁度満 30 年、今回で 21 回を重ねております。

その間、主として日米の地方行政に共通する重要課題を取り上げ、真剣な討議を行い、日米両国の地方行政の改善とそれぞれの住民の福祉の向上に大きく寄与してきたところでございます。

今日、日本とアメリカの間には、産業、経済、貿易、農業、金融、その他あらゆる分野において問題を抱えておりまして、これらの解決をはかる

とともに、日米の経済、文化等の交流の一層の拡大をはかり、両国国民の福祉を発展させることが、私ども日本とアメリカの知事に課せられた重大な責務であります。

今回、私どもはそういうことから「日米親善の推進について」という議題を提案いたしまして、日米双方の忌憚のない意見交換を通して、両国の経済、文化等の交流の拡大・発展と一層の親密さを増し加えてまいりたいと考えている次第でございます。

私は、日本とアメリカでは都道府県と州の行政機能の相違はありますものの、両国の知事がそれぞれの視点に立って率直な意見交換を行い、相互の認識を深めるよい機会としてこの会議を考えているものでございます。

アメリカの知事団におかれましては、本日の会議をはじめ、明日からの要人会見、地方視察を通しましてわが国行政の実態をご理解賜りますとともに、その施策につきまして有益なご示唆をいただきますればまことに幸甚に存する次第でございます。

最後に、この日米の知事の相互訪問事業に対し、両国国民はその成果に多大な期待を寄せております。私は、このたびの皆様のご来日が両国国民の相互理解と友好を深めるものとなることを確信いたしております。その意味におきまして、本日の会議がご列席の各位のご協力によりまして所期の目的を達成し成果を挙げられますよう、切に希望いたしまして私の歓迎のご挨拶といたします。

2 アメリカ知事代表挨拶

ミネソタ州知事

アーニー・H・カールソン

本日の第 21 回日米知事会議にご出席の知事の皆様。ご歓迎ありがとうございました。また、この会議に出席するようご招待下さいまして誠にありがとうございました。私は大変光栄に存じております。

最初に、米国の他の 49 名の知事を代表し、熱烈なご挨拶を申し上げたいと存じます。

ここで、コロラド州知事のローマー全米知事会会長及びサウスカロライナ州知事のキャンベル全米知事会副会長からのご挨拶をお届けしたいと思います。

「

1992 年 11 月 17 日

全国知事会会長

鈴木俊一 殿

全国知事会副会長

荒巻禎一 殿

拝啓

日本国の全国知事会の皆様にご心からご挨拶を申し上げます。我々が知事会議に出席できないことは誠に残念ですが、我々は個人としてのメッセージをお送りしようとは思いません。新しい知事会会長とともに、我々は現在保健医療や連邦予算赤字の縮小などの分野での国家政策の開発の準備に力を尽くしています。

今貴下方は第 21 回日米知事会議を正式に開催しており、我々はそのテーマ：「日米親善の推進」に対し祝福の言葉を述べさせていただきます。

1990 年代において日米両国が一群の新しい挑戦に立ち向かっている現在、

これは適切且つ時宜を得た主題であります。

ミネソタ州知事アーニー・H・カールソン氏を我々の代表として送ることが出来るのは、我々の大いなる喜びであります。彼の略歴に付き簡単に申し上げます。アメリカ全国知事会会員としてカールソン知事は国際取引委員会の有能なメンバーとして活躍しております。本年、彼は人的資源委員会の副議長に任命されました。貴下方は多分、保健医療と教育の改善に対する彼の強烈な個人的関心、並びに国際貿易と文化面での諸関係推進への彼の献身をご存知だろうと思います。

カールソン知事が我々知事会との協力で行った彼の仕事で示した指導力は、生涯に亘る公共奉仕の一部です。知事に選ばれる前、彼はミネアポリス市評議会議員、州立法府議員、及び12年間に亘る州監査官として、30年間に亘り公共の奉仕に献身してきました。

我々はこの重要な会議にカールソン知事を代表として送ることを誇りに思います。そして日本国全国知事会が我々の代表団に示されたご厚情に対し、厚く感謝いたします。我々の長年に亘る協力と交流活動は、日米国民の親善推進並びに文化的理解と経済交流の促進の為相互に有益であることを確信します。今回の交流に関するカールソン知事の報告を待ち望み、相互協力と友情への我々の一致協力した献身が今後も継続することを期待いたします。

敬具

全国知事会会長

全国知事会副会長

ロイ・ローマー知事

キャロル・A・キャンベル知事 』

特に、この両知事は現在、クリントン次期大統領の大統領就任準備のために大変忙しくなっております。

この日米知事会議は、私どもにとって大変重要であります。ここで少し時間をお借りいたしまして、私どもの共通の問題を申し上げたいと思いま

す。

現在の世界は、経済の見通しについて、大変神経質になっております。世界では、第二次世界大戦以降、軍事力という形で力をつけようとしてまいりました。だが、世界では共産主義が崩壊した今、全く違った課題が残っております。この課題は、世界の国々が軍事的手段に頼らずに、どうやって経済を復興できるのか、ということを考えなければならない時代になっております。

そこで、私どもが選出されて、責任ある立場にある者といたしましては、常に新しい解決法、新しい方法を見つけなければなりません。世界は今急速に変わっているからです。どのような変化がアメリカに影響を及ぼそうと、また、どのような変化が日本に影響を及ぼそうと、世界中に影響を及ぼします。これは両国が世界の二大経済大国だからです。

私はコップに水が半分入っているのを見ますと、半分空になってしまっているというよりも、まだ半分残っているというふうに言いたいと思っております。つまり、新しい課題を作ることができると思っております。新しい課題というのは、長期的な仕事だと思っております。私どもは日本の皆様から長期的な計画の重要性を学びたいと思っております。これは伝統的にアメリカが不得意としていた点ですが、日本の文化を知るにつれて、長期的な計画の価値も私どもも理解するようになってまいりました。アメリカではこういった長期的な計画に目を向け始めております。私どもの子供達のためになるものとして考えております。

二つ目として、アメリカの経済の最大の問題は、連邦政府の財政赤字が現在4兆ドルにも上っております。今回の大統領選では、ブッシュ大統領、クリントン次期大統領のどちらの陣営も、もし選挙に勝てば、この赤字の問題に対処すると言っております。クリントン知事が選ばれたということで、これがこの公約の中でも主要な問題の一つになると思います。

三つ目として、この種の重要な会議に参加することにより、私どもは既

存の技術、そして、これからの技術を共有することによって、世界中の国が考えている問題の解決に当たることができます。こういった問題は、環境関連のジレンマから持ち上がった問題です。世界の主要国もスモッグの問題を抱えております。また、水質問題や土壌問題を抱えております。そして政府は、民間部門とともにもっとその資産を研究・開発に向け、私どもの環境を子供達の為に守ることのできる技術に当てなければなりません。

また、将来の問題は、どのようにして世界の人口の食糧を調達するかということに係るものだと思います。日本もアメリカもこの面で指導的な役割を果たさなければなりません。

そういった大きな問題の一つで、アメリカが現在特に取り組み始めているのが教育問題です。私どもアメリカも全児童に教育の手段を提供しております。しかし、その教育の質が問題となってきております。どの州もどンドン教育制度の改革を採り入れ始めてきております。このような会議の場を通して情報を交換することで、私どもの国にそういった情報を持って帰って、我々の国の為に制度をまた利用することができると思います。

アメリカの全ての知事を代表し、また次期クリントン大統領に代わり、私が日米知事会議に出席できたことを大変嬉しく思っております。大変ありがとうございました。

3 来 賓 挨 拶

① 穂積良行自治政務次官

本日、第 21 回目の日米知事会議がこのように開催されますことに対し、心から敬意を表する次第でございます。

特に、アメリカ・ミネソタ州からカールソン知事はじめ、ご一行の皆様におかれましてはようこそお越しいただきました。

カールソン知事さんのご挨拶にもありましたが、今や世界は長い冷戦が終結し、新たな時代に向っております。このような現在の状況をつくりだしたものの一つには、アメリカと日本の同盟関係の下で、世界のよりよき方向を築くという努力を重ねた結果であると存じております。

そうした中で、今日は、日米親善関係をさらに推進するというテーマの下に、日米それぞれの都道府県あるいは州が、特に、国民に密接な関係を有する知事さん方が有益な話し合いをされますことは、私にとりまして大きな期待を持つものであります。

私ども、自治省におきましても、これまで外務省と協力いたしましてわが国の外国語教育の充実、また地域レベルの国際交流の推進をはかっており、とりわけ、その目的で外国青年を招く、いわゆるジェット（JET）プログラムを実施しております。この計画では、本年度は 9 国から 3,325 名の青年を、中でもアメリカからは現在 1,700 名に及ぶ青年男女をお迎えして日本の各地で活躍していただいておりますように、わが国の国際化、国際親善の増進に大きく寄与していただいているのであります。私どもはこの事業をさらに続けてまいりたいと思っております。

このような仕事を今後とも重ねまして、国の事情は違うかも知れませんが、それぞれの事情を互いに理解し合って日米の親善が一層増進されますことを心から期待する次第でございます。

最後に、この会議の成果がミネソタ州にも、それからわが国各県民の皆様にも及ぶことを心から祈念いたしまして私からのご挨拶といたします。

② 林貞行外務大臣官房長（渡辺美智雄外務大臣挨拶代読）

日米知事会議の開催に当たり、一言ご挨拶する機会を得ましたことを光栄に存じます。

日米知事会議が、1962年に発足して以来、今回で21回目の会議を迎えることになりました。本会議は30年の長きに亘り着実な歩みと発展を遂げてきたことは、その時々々の情勢を反映した議題を取り上げ真摯な討議が行われてきたことの成果と確信しております。

今日、日米両国は経済大国として技術先進国として、そして自由と民主主義という基本的な価値を共有する国として世界をより平和で繁栄したものと導いていく共通の責任を有しております。冷戦が終結し、日米が新時代を迎えようとしている中、この責任はかつてない重要性を有するに至っております。

このような認識に立ち、日米両国政府は現在、様々な協力を進めておりますが、両国間の緊密な協力の基盤となるのはいうまでもなく幅広い国民レベルにおける相互信頼と相互理解であります。

そのためには、両国間の豊かで多様な交流を促進し、相互の理解をより深めていくための努力が必要であります。姉妹提携をはじめとしまして、知事各位が携っておられる地方レベルの交流は両国間の相互信頼、理解を強化するうえで極めて重要な役割を担っております。

本日、ご出席の知事各位の努力と貢献に対し改めて敬意を表したいと思います。

最後に、本会議における有意義な意見交換が行われ、所期の成果を挙げられることを祈念するとともに、今後の日米関係のより一層の増進に尽力されることを希望してやみません。

③ ブリアー在日アメリカ合衆国公使

(アーマコスト在日アメリカ合衆国大使メッセージ代読)

鈴木東京都知事、カールソン・ミネソタ州知事、ご列席の知事の皆様、ご来賓の皆様。アーマコスト大使は、残念ながら本日の日米知事会議には、その前に約束があったため出席することができません。しかし、私は「日米知事会議が実り多い成果を得る。」という彼の希望を伝えるためにまいりました。

特に、ミネソタ州のカールソン知事が出席していることを、大使は嬉しく思っております。ミネソタ州はご存知のように大使の母校の場所であり、現在も大使の関係者が住んでおります。大使からのメッセージを代読したいと思います。

「30年前、この会議はアメリカの州と日本の都道府県の知事を集めることで始めました。長年に亘って日本の知事は、アメリカを訪問し、また、アメリカの知事が日本を訪問してまいりました。お互いから有益なことを色々勉強し合ってまいりました。これは誰にとっても驚きではありません。国の特徴が最も良く表現されるのは、地域レベルであり、また、訪問者も地域レベルで最も良く吸収できるものです。

私は駐日大使として3年以上になりますけれども、本日の日米知事会議にご出席の知事の皆様をはじめ、都道府県の知事各位からご歓待をいただき、日本の都道府県を訪問することで、色々なことを勉強いたしました。また、私は地域を直接見ることで、地域の状態を勉強することができました。

日米両国は将来より多くの調和をはかるようになる状況の中で、両者の国民がお互いをできるかぎり理解することが重要です。知事は政治的な指導者として、完全な政府の最も効率の良いレベルでの政治的な指導者として、相互理解を促進する上で、重要な役割を果たしております。ですから、このような交流プログラムの有益性を私は確信し、将来この

交流を更に拡大することを期待しております。

来年1月20日、クリントン氏がアメリカ大統領に就任いたしますと、過去4代の米国大統領のうち3人までが知事出身であります。このことは、世界の最も重要な二国間関係の間で、知事同士の交流を継続することが、いかに重要であるかということ、これは象徴していると思います。皆様の会議が成功に終わることを期待しております。

そして、今回の第21回日米知事会議が過去の会議と同じように実り多いものであり、将来両者の知事同士のより緊密な関係を築き上げる貴重なステップになることを期待しております。私はこの会議でメッセージを伝えることができることを嬉しく思っております。

駐日アメリカ合衆国大使 マイケル・アーマコスト」

4 討 議

(1) 議 題「日米親善の推進について」

① 報 告

1) 佐々木秋田県知事

秋田県知事の佐々木でございます。

このたび、第21回日米知事会議に、アメリカ知事会代表としてカー
ルソン・ミネソタ州知事をお迎えできましたことは、このうえない喜
びとするところでございます。

さて、日米両国のパートナーシップということについて、私は、冷
戦構造の終結した今、世界の様々な問題を解決していくうえで、日米
両国の果たすべき役割はこれまで以上に大きなものがあり、従って、
両国の協調関係を一層緊密にしていかなければならない。そのために
は、国レベルだけではなく、地域レベルでも様々なチャンネルをフル
に生かしながら、相互理解・相互依存を強めていかなければならない
と存じております。

しかしながら、一口に相互理解と申しましても、一朝一夕にできる
ものではありませんから、かなり息の長い取り組みが必要であり、よ
り効果的に進めるためには、国レベルよりもむしろ地域レベルでの交
流が、ますます重要になってきているのではないかと考えております。

こうした考え方を前提にしながら、秋田県とアメリカとの交流の現
状について申し上げます。

まず、秋田市に隣接する雄和町が1989年にミネソタ州セントクラウ
ド市と、また翌90年には海岸部の仁賀保町がオクラホマ州ショウニー
市と、それぞれ姉妹都市の提携を行い、交流を始めております。また、
山間農村である東成瀬村では、アメリカ政府公認の日本文化交流団体
である『デンバー日本館』を拠点にしてデンバー市民との相互訪問を
行っておりますし、今年1月には、アラスカ州キナイ半島郡の代表が

県都秋田市を訪問し、今後の交流の可能性等について話し合いがなされております。

また、学術面でも、長年に亘って国立秋田大学とミネソタ州のセントクラウド大学が学術交流を行っております。

このような市町村や大学における取り組みに加えまして、本県ととりわけ深い関係を有するミネソタ州との交流について触れさせていただきます。

まず申し上げなければならないのは、ミネソタ州立大学機構秋田校でございます。州政府ご当局の絶大なるご理解とご協力を得て、1990年5月に開学することができました。2年半を経過した現在では、多くの教官や学生が本国から来日され、日本の学生とともに研究や勉学に励んでおられます。

また、秋田校の開学を契機にして、秋田県民においても交流の機運が高まり、今年7月には青少年142人を含む総勢345人の県民が、秋田空港からチャーター機でミネソタ州を訪問するなど、民間レベルでの交流も進みつつあります。

以上、申し上げましたとおり、秋田県におきましては、ミネソタ州をはじめアメリカ国内の各地域との交流が、ここ数年の間に大変盛んになってきており、誠に喜ばしいことだと思っております。

こうしたこれまでの実績を足掛かりにしながら、今後21世紀に向けて、経済の交流だけでなく、学術、文化など幅広い交流をさらに積極的に推し進め、日本の各地域とアメリカとが、さらに太い絆で結ばれなければならないと存じております。

ご一行の皆様におかれましては、この後京都を経て、20日には秋田にお越しいただくことになっております。お忙しい日程にもかかわらず、秋田を訪れてくださいますことに感謝申し上げますとともに、県民ともども心から歓迎を申し上げます。

2) カールソン・ミネソタ州知事

30年前、私達の先輩達は強い絆を確立し、維持することの重要性を認識しました。そういう努力が我々両国間の現在の絆の基礎を提供しました。

1962年には、個々に外国旅行をする場合はほとんどありませんでした。まして日本を訪問する知事はもっとまれであります。しかし、世界が相互依存度を高めるにつれ、知事は国際舞台でより重い責任を負うようになり、また貿易の門戸を自ら開放し、諸外国との関係を改善するため、一層努力するようになりました。1991年には、33人の知事が延べ63回、外国を訪問し、そのうちの14回は日本訪問でありました。今年日本を訪れた知事はかなり多いと思います。

日米親善の推進は勿論、この会議の議題であり、これは極めて適切な議題であると、私は思います。アメリカと日本は、相互の好意と尊重に満ちた関係をつくり上げてきましたが、政治的・経済的な面にも新たな課題が持ち上ってきております。

アメリカにおいては、過去何年間にも亘り我々二国間の貿易関係に多大の関心が注がれてきました。日本とアメリカは世界最大の経済国家であり、全世界経済の1/3以上を占めております。日本はアメリカにとって二大貿易相手国であり二大輸出市場でもあります。

さらに、アメリカにおいてイギリスに次ぐ第2の投資国でもあります。このデータは日米両国政府間、企業間及び国民間の結びつきの豊かさと同様性を反映しております。勤勉とたゆまぬ調整を通して我々は常に我々の全般的な友好関係を形成し、明確・広範で相互に有益な貿易形態を打ち立ててきました。

近年、私達はこの友好関係を促進するため多大の努力をしてきました。

1990年には、日本はアメリカ製品の輸入を促進するための輸入拡大

計画を確立しました。JETRO（日本貿易振興会）は、如何にして日本に輸出するかについて、アメリカ企業に教えるため連邦及び州政府の通商担当部局に密接に連絡しながら仕事を進めています。ミネソタ州は、今後2年間、JETROの代表の派遣というアナウンスメントに感謝しております。

昨年秋、例えばグローバルな提携関係のためのビジネスイニシアティブが発表されました。それはアメリカの通商上の利益に大きく寄与し得るものでありまして、このイニシアティブは、日本におけるアメリカの投資等の推進を目的としております。

これらの、またその他の努力に表明されている善意と約束は我々の友情の結びつきを強めるために貢献しています。

それらは、また、アメリカの日本に対する貿易赤字が1987年以来30%低下し、一方同じ期間に、アメリカの日本への輸出が70%増大したという事実に貢献してきました。

私ども、二国間の経済関係に加え、我々両国とも世界市場に参加してきました。我々両国は発展途上国に援助を与えており、また、両国は東ヨーロッパと旧ソ連において形成しつつある市場経済の問題にも直面しております。さらに、我々両国は国際的な貿易ルールを強化拡張させるための多角的貿易交渉に参加しております。これらの努力の成果のすべては、我々の世界的環境に敏感に対応しなければなりません。世界的な経済環境における私ども両国の責任も、また我々の友情を確かめるために役立ちます。

私どもの関係の、もう一つの側面は、我々の安全保障同盟に関するものであります。ここにもまた、新しいチャレンジが沢山あります。世界は変化しております。この地域における我々の相互防衛のニーズも変化しております。一方、知事は防衛問題には直接関わっておりませんが、我々は冷戦の終結に伴う経済情勢の変化により直接影響を受

けています。我々、アメリカは防衛関連産業からの離脱という、わが国経済の変化に対処しなければなりません。さらにまた、国内及び海外という両面のわが国の軍事力の削減にも取り組まなければならないのであります。我々、国際的・経済的パートナーにとって、困難なまた国内の苦痛を伴う変革に対処するに当たって忍耐も必要であると思えます。

日本もまた、安全保障の将来についての困難な決断を迫られています。

私どもは湾岸戦争の際の日本からの貢献に対して、またその地域に駐留しているアメリカ部隊にさらに多くの財源を提供するという最近の決定に対して深く感謝しております。

私は世界の指導者として、将来の我々相互の安全保障の必要性に対し、この地域及び世界全体における安定と平和を促進するために両国が共同して立ち向かうことができると確信しております。

これ以外にも我々を結び付けている多くの事柄があります。

私どもは科学技術研究、例えば医療、環境の清浄化及び宇宙探査等の分野における科学技術的研究・革新を継続して推進することができ、またそうしなければなりません。これはまさに新しい世紀への準備としてアメリカと日本が、個々の力と両国の共通の友情を引き出すことのできる分野であります。

知事は何を行うべきでしょうか。この30年間において我々の友情は今回のような交流を通して成長し、成熟してきました。最も効果が長持ちするのは、我々国民の間の個人的な接触であります。文化の交流、教育の交流、科学的協力及び合弁事業は、我々両国国民を様々な持続的な方法で結び付けます。

12の州が日本の13の都道府県と姉妹提携を持っています。これらの結びつきは文化的あるいはその他のいろいろな活動のための枠組みを

創造することができます。それらは、また東京とワシントン D.C. の範囲を乗り越えて素晴らしい連帯をつくりだすことができます。

私は、日本とミネソタ州政府の間の学術的關係についての秋田県知事のコメントに対し深く感謝した次第であります。私どもが国際社会の一員となるには、我々の学生もそのため外国で勉強することを覚えなければなりません。私どもは、そういったことで秋田県の学校を訪問する予定でありますけれども、こういった概念がさらに拡大することを期待しているところであります。

知事は、我々二国間の結び付きを深く認識させるため、国際的な観光旅行を奨励し、またより密接な協力の機会を求めるために、その指導的立場を用いることができます。

結論として申し上げますと、私はアメリカと日本の間で育まれてきた友情を促進するという利益を共有できることを喜んでおります。

私どもは知事としての我々の役割が地図の境界によって制限されてはならないことをよく知っております。また、我々は世界的なスケールで影響を及ぼし、さらに我々の友好を強力な基礎のうえに築き上げるためにあらゆる努力を払わなければなりません。

② 意見発表

1) 北村青森県知事

私は、青森県知事の北村でございます。

このたび、第 21 回日米知事会議におきまして、日本とアメリカとの友好親善の発展について発言の機会を得られましたことを大変嬉しく存じます。

両国間の友好と親善を深めるために、これまで本会議の果たした役割は非常に大きいものであったと思っており、今後も本会議の成果を実り多いものとしていかなければならないと考えております。

それでは、まず最初に、青森県の概要についてご紹介させていただきます。

青森県は、日本の本州の最北端に位置し、森林が県土の 67% を占め、また、三方を日本海、太平洋、津軽海峡と海に囲まれており、概して冷涼型の気候であります。四季折々の変化に満ちあふれた自然を有しております。

産業面では、農業の分野におきまして、リンゴの生産量が日本の総生産量の過半を占める生産地となっているほか、にんにく、ながいもも全国一の生産量となっており、特に、寒冷地型の農業栽培については高い技術を有しております。

一方、水産業も盛んで、養殖などの栽培漁業や水産物加工においても、高い技術力を有しております。

さらに、近年では、バイオテクノロジー利用産業、メカトロニクス関連産業、ソフトウェア産業など高度な技術力を持つ産業の導入、育成に努めております。また、原子燃料サイクル施設やその研究機関の立地が進められているところであります。

続いて、青森県におけるアメリカとの交流についての若干の事例を交えて、日本とアメリカとの親善の推進についての意見を述べさせて

いただきます。

まず、1931年10月4日であります、歴史的な成功を遂げました太平洋無着陸横断飛行は、青森県の三沢市からワシントン州のウエナッチに向けて飛行したものであります。

また、本県においては、国で進めている外国青年招致事業により、アメリカの青年33名が県内の高校や中学校で、英語の指導助手として、また国際交流員として活躍しております。

彼ら青年が、単に英語の語学指導ばかりではなく、積極的に地域の住民活動へ参加し、アメリカの文化・歴史や風土について語られ、相互理解に努めていることを大変嬉しく思っております。

また、青森県内には、三沢米軍基地があり、日米の安全保障上重要な地域となっておりますが、同時に、米軍基地関係者が家族を含めて12,000人ほど住んでいる地域でもあります。

したがって、県民と基地関係者との交流も盛んになっており、最近では、基地内のアメリカン・スクールへ県内の中学生が訪問したり、あるいは、基地内の中・高校生が町でホームステイするといった、子供達の心触れ合う交流が行われております。

さらに、基地内の婦人の方との交流などを通じて、アメリカの文化や生活を非常に身近に感じることができます。

平成2年（1990年）からは、三沢基地内にある大学への県民就学事業が始まり、多くの学生が青森県に住みながら、アメリカの大学の学生として学んでいます。

彼らが、単に語学のエキスパートとしてだけでなく、両国の友好親善の架け橋役として活躍することを期待しています。

また、青森県内の5つの市・町がアメリカの市と姉妹・友好提携し、相互訪問などの交流を精力的に進めています。

青森県におけるアメリカとの交流の一例を紹介しましたが、青森県

にとって、アメリカは経済的にも文化的にも最もつながりが深い地域であります。

そして、今後も、経済交流はもちろんのこと、農林水産技術、教育、文化、スポーツなど様々な分野で交流を進めていくことが、青森県の発展とともに、両国の相互理解と友好親善の推進に大きく寄与すると考えています。

今後も絶えず、市民レベル、草の根交流を含めた多面的で幅広い交流を続け、真の友好親善を深めていくことに、私は更なる努力を続けてまいりたいと考えています。

最後に、本会議を契機として多くの交流が芽生え育つことを念願しながら、発言を終わらせていただきます。ありがとうございました。

2) 竹内茨城県知事

茨城県知事の竹内でございます。

私も、1975年に日本側知事団のメンバーとしてアメリカを訪問しまして、ハワイ州、アイオワ州、オハイオ州、モンタナ州などでいろいろ見せていただき、大変歓待をいただいたわけであります。

それでは、茨城県の概要について説明申し上げます。

茨城県は、東京の北東部に位置し、面積約6,000km²、人口約290万人を有しております。

本県は、筑波山や霞ヶ浦に代表される豊かな緑と水、太平洋に面した長い海岸線など、すばらしい自然に恵まれた温暖な地域であります。

本県は、農業が盛んで、全国第2位の粗生産額をあげており、そのうち約45%は野菜、果樹、花などの園芸作物で、その他は米、畜産であります。最近では京浜地域で高い市場占有率を占めております。

また、工業については、出荷額で全国第9位であり、県北の日立市を中心として電気・機械産業が立地し、鹿島地域におきましては、鉄

鋼、電力、石油化学等の企業立地に加え、飼料コンビナートも進出し、わが国有数の産業拠点を形成しております。

さらに、県南の筑波研究学園都市は、全国の34%に当たる47の国立の研究機関や国立大学、さらに179の民間の研究所があり、全体で約1万人の研究者が働いており、今後更に増える見込みであります。

また、つくばは、1985年に開催された国際科学技術博覧会を契機に、国際的な頭脳センターとして内外に知られ、外資系企業25社を含め220を超える民間の研究開発型の企業が周辺の工業団地等に立地しております。

このつくばを、さらに国際的な都市としていくため、国際会議場やコンベンションホールの建設、さらには、つくばと東京を結ぶ新たな鉄道の建設を進めているところでございます。さらに、成田空港と結ぶ高速道路の建設も進められており、これができるると車で30分で行けることとなります。

このように本県は、豊かな自然の中で最先端の産業と科学技術が集積し大きな成長を遂げておりますが、さらに水戸市の東方約10kmにある常陸那珂地区において港を建設中であり、鹿島港とあわせ、東京湾の港を補完する一大港湾地帯の整備を進めております。また、この常陸那珂地区はわが国の輸入促進地域の一つとして、輸入インフラの整備を進めるための調査を行っております。

次に、本県の国際交流についてでございますが、本県は、東京や成田空港に近く、また科学万博の開催や筑波研究学園都市の整備、国際港湾の建設により、国際化の基盤づくりは急速に進んできており、本県に在住する外国人は103カ国、21,243人を数えております。特に筑波学園都市には約2,600名の研究者や研修生が長期に亘り滞在し、研究に励んでおります。

アメリカとの交流につきましては、ほぼ毎年のように、高校生の海

外セミナーや農業青年の海外派遣等を実施し、ホームステイ等を行い、交流を深めております。また、アメリカを中心に英語圏等の青年を本県に招致し県庁や教育委員会に配置して、国際交流や英語教育に活躍していただいております。さらに、昨年9月には、茨城県議会の地方行政視察団がミネソタ州ミネアポリスにある世界最大の穀物商社カーギル社やアメリカ最大のショッピングセンター「モール・オブ・アメリカ」を視察しました。

また、日本3名園の一つに数えられる本県の偕楽園とカリフォルニア州ロスアンゼルス郡ピーター・F・シャバラム・リージョナル公園と本年2月に姉妹公園の締結をし、この11月13日に行われた記念碑の除幕式に約350名の県民が同公園を訪れたところでございます。

なお、県内の87市町村のうち9市町村が米国の各都市と姉妹提携をし、使節団の派遣などの交流を行っております。

最後に、今回のご訪問が実り多いものとなることをお祈り申し上げますとともに、これを機会に貴国との交流が一層深まることをご期待申し上げます。

3) 荒巻京都府知事

京都府知事の荒巻でございます。

このたび、第21回日米知事会議におきまして日米友好の国際交流について発言する機会をいただきましてまことに光栄に存じます。

本会議は21回という多くの回数を重ねてまいりましたが、この間、本会議の発展と日米両国の友好のために尽くされてきた両国の諸先達並びに関係者の皆様方のご功績とご労苦に対し、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

京都のことにつきましては、明晩京都へお越しいただきますので、本日は少しだけ触れさせていただいて、京都でまたゆっくりお話しし

たいと思います。

京都は、今から 1,200 年ほど前に、日本の国の都としてつくられた首都でございまして、それ以来 100 年ほど前まで日本の首都でございました。そういう中から日本の文化が集約的に産業、芸能、あるいは人々の考え方などが残っており、日本人の文化あるいは日本人の心を理解するには非常に適した場所であろうと考えております。

そのような理由で非常に観光客も多く、年間 5,000 万の人が京都に来ます。そのうち外国人は、約 40 万人ぐらいでございます。

一方、先端産業も進んでおりまして、例えば、京セラ（株）というコンピュータ関連機器などをつくっている会社があります。また、ミネソタ州もコンピュータ産業が非常に盛んだと聞いております。さらに、アメリカの大リーグを買収して話題になりました任天堂というファミリーコンピュータ会社も京都にございますし、銀行のキャッシュ・ディスペンサー、駅の自動改札機をつくっている、オムロン（株）という会社もありまして、先端産業も進んでいるところでございます。

それから、茨城県知事がお話しされた筑波研究学園都市に対して、西の方でそれに相応する関西文化学術研究都市というものをつくっておりまして、そこでは、特に地球環境産業技術研究機構というかたちで、地球の環境問題に対して生産を持続しながら環境にも配慮するというようなことを総合的に行う研究所がつくられております。

また、カールソン知事がお話しされたように、今や日本とアメリカとで世界経済の 1/3 以上のウェートを占めており、日米関係が世界に及ぼす影響は非常に大きなものがあります。そういう中で日米間での貿易摩擦、経済摩擦が世界的に大きな影響を与えるので、それをなくすよう努力すべきであるということは私も賛成しますし、是非その努力をしたいと思っております。

このようなことについて政府間の交渉は勿論大切であります、各

地域がこのことをよくわきまえて交流し解決に向けて努力することは非常に大切だと思っております。

ただ、この場合、文化の違いということが大きな問題でありまして、この文化の違いをお互いが理解しない場合、一方の文化の押し付けになったりして貿易の障害等になったりすることがあります。

従ってそういうことがないように、お互いが交流して文化を理解し合うことが貿易摩擦の解消のためにも、大きな役に立つことだと考えまして地方間の友好関係を一層進めたいと思っております。

特に、京都は今、アメリカのオクラホマ州と友好提携を結んでおります。

歴史が非常に古い京都と新しく開発されたオクラホマ州という両極端の両者であります。変わったところの結びつきも一つのおもしろさがあると思ったりしておりますし、また、オクラホマはスーナーステーツと仄聞しております。そういう意味では恐らく早いもの勝ちで姉妹都市になったのではないかと考えております。両者の間では、医学や農業の留学生、スポーツなどの交換をしております。今後できるだけ多くのところとたくさん関係を結びたいと考えておりますので、是非この機会をとらえて皆様との交流も進めたいと思っております。

いろいろ申し上げましたが、皆様方が、明日京都へいらっしゃいますことを心から歓迎しお待ちしておりますことを申し上げ、私の発言にさせていただきます。

(2) 意見交換発言要旨

○ (Q) ④ 今回、アメリカ知事団の参加者が少ないが…。

(A) ⑤ アメリカは困難な選挙を終えたばかりである。若干の知事がクリントン政権の閣僚のポストにつくよう要請されるかも知れないということで多くの知事が自州で待機中だ。しかし、この種の会議は大変重要であり、アメリカからもっと多くの知事が参加すべきだと思う。

これは私の個人的提案だが、もっと広い範囲の知事が参加できるように、今後は両国の選挙と衝突しない時期を選ぶようにした方がよい。

○ (Q) ④ 日本では、国民の 13% を 65 歳以上で占めており、あと 20 年も経つと、25% が 65 歳以上になるだろう。

このような中で、労働力の確保や福祉経費の増大について、アメリカ、ミネソタではどう考えるか。

(A) ⑤ アメリカも 65 歳以上の人口を多く抱えている。

アメリカの医療問題で最大の問題は、保健医療費の急増である。一般物価上昇率の 3~4 倍で上がっていき、大多数の知事は予算の中で一番多く増加しているのが保健医療関係だと苦情を言っている。

わが州では医療費の年間上昇率を 10% 下げる方式をつくった。クリントン知事が大統領になったとき、アメリカ全体の制度を立案する前に、ミネソタ州のシステムを見て欲しいと思っている。我々は、アメリカの保健医療の質を保持すると同時に、競争原理を維持して価格を下げることを望んでいる。

○ (Q) ㊦ 情報公開についてはアメリカの方が進んでいると理解しているが、どの程度のものか、また、限界を感じるようなことがあるか。

(A) ㊦ ミネソタ州では情報制度は大変開放的である。地方自治体の議会は会議開催を事前に公表し、その決定はすべて公開でなければならない。また、州政府も同じ法律の支配を受けている。さらに、個人資産についても公表しなければならないし、利害を伴うような可能性のある事項については、国民からみて利害の対立を避けるようにしなければならない。

連邦政府では情報の自由に関する法律があり、ほとんどの州が同種の法律を整備している。これはマスコミ向けのものだが、情報へのアクセスもこの中に含まれている。

ミネソタ州では倫理規定があるが、これは知事の政権に関するもので、議会・議員を対象とはしていない。

アメリカの政治で特に興味があるのは議会はほかの人の法律ばかりつくり、自分達の関係する法律はあまりつukらない傾向にあるということだ。

アメリカでは50州あるので、他の49州のことは申し上げられない。

また、どのような制度をつくろうとも、いつも完全なものはないと思う。

○ (Q) ㊦ 貿易問題について世界中が神経をとがらせているが、これは農業補助金と関係がある。選挙期間中もクリントン政権が成立すれば、保護主義の傾向が強まるだろうとの危惧が抱かれていた。

日本はブロック経済圏をつくろうとしているのか。アメリ

カとの経済的結びつきを強めつつあるのか。

- (A) ㊦ 日本は自由貿易によって今日の繁栄を築いたものであり、自分自身は資源を持たず、技術と付加価値によって国民の生活水準を高めてきた。

アメリカの品物などでも、日本に入ってきているマクドナルド、コカコーラ、ケンタッキーフライドチキンなどのように消費者に支持されているもの、良いものはどんどん発展している。いずれにしてもフェアな競争をしつつ、障壁はできるだけ除かなければならない。

- ㊦ 東南アジアが経済ブロック圏をつくり、その中心に日本があるのではとされているが、アジアにおいてアメリカのプレゼンスがなければ安定した経済活動はできないと思う。ただ、アジアとアメリカはあまりにも遠い。

そこで、SST（超音速旅客機）というようなものが実用化されれば2～3時間でアメリカからアジアへ来れるので、そういうものを推進することによって飛行機に始まって飛行場など、投資機会が極東に生れてくる。アメリカはそういうところを強くプッシュしていただければと考える。

- ㊦ 民主主義、自由主義は普遍的価値があり、資本主義経済では自由貿易が基本原則であると思うし、ブロック経済圏を築くことは過去の経験からしてもあってはならないと思っている。

ただ、それぞれの国において歴史的発展段階の違い、文化や宗教、ものの考え方も違うので人類全部のためそれを通用させるといっても現時点でどの程度できるか。現実的にはいろいろ悩みがあり難しい面もあると思う。

- ⊛ 私の妻は、日本の車を運転し、私はドイツ車を運転してい

る。ゼネラルモーター、フォード、クライスラー等のアメリカの会社が良い車をつくれれば、私もそれを買うだろう。

我々は今、世界経済の中で生きており、世界的規模でものが買われるなら競争も世界的にならざるを得ない。

○ (Q) ④ 産業廃棄物はどう処理しているか。また、リサイクルについてはどうか。

(A) ⑤ ミネソタ州はアメリカでも最も厳しい環境対策の法律を有している。廃棄物を出す企業と協力して最新の技術を導入し、排出物による環境破壊を防ごうと努めている。

我々は、世界最大の淡水湖であるスペリオル湖の近くに住んでいる。湖の北側に製紙工場がたくさんあるが、我々は2000年までに、この湖への有害物質の排出をストップする規則を制定した。我々は州内最大の企業2社と協力してそれぞれ2,000万ドルの環境設備を設置して有害物質の排出をゼロにすることが可能となり、これは環境保護の点で世界で最もすぐれた工場だと思う。

大気汚染についても、我々は世界の他の地域と同様の問題を抱えている。わが州は東京やニューヨークほど大きくはないが、車があり排気ガスの問題がある。我々は触媒コンバーターが作動しているかどうかを調べる年次検査を行っている。また、大量公共交通機関の利用を促進しようとしているし、住民に自家用車よりバス利用を勧めている。

また、我々はリサイクルについては、いろいろな物質（プラスチック、あき缶、ビン等）のリサイクルに努めている。州内のスリーエム社は世界中の企業に、環境を守りながら利益を上げる方法を教えている。

紙についてはもう少し問題がある。リサイクルをしなければならぬ紙が大量にあり、問題は解決したとは言えない。

しかし、我々は世界中から最新の環境技術を取り入れようとしている。

ミネソタ州には 10,000 以上の湖があり、州民は魚釣りや狩猟を、また田園や森林を好む。彼等は環境汚染に対して不寛容である。

さらに、アメリカ側から次のような発言があった。

- ・教育制度について幼稚園から高卒までの教育と労働市場との関連は世界の先進国で最も悪い。アメリカの子供たちは 8 年ぐらい空費している。職業教育につくか、大学まで行くか、もっと早い機会に子供たちに決めさせるシステムをつくりたい。

- ・現在働いている人々の再訓練が必要であると思う。昔のように筋肉労働に依存するのではなく、高度の頭脳労働に依存する先端的アメリカ経済をつくり上げるためには、これが必要である。これは過去からの決別だ。我々は、旅行すればするほど、50 年前、100 年前と同じやり方では競争に勝てないことがはっきりわかる。

- ・ミネソタ州の警察制度は、距離が馬の能力に基づいて決められた時代につくられたものの例で、行政組織のひどい重複ぶりは最早受け入れられない。

新しい時代に生きるため、今後数年間に政策の重大な転換をはかりたい。

5 共同声明

(1) 共同声明

日本の都道府県知事とアメリカ州知事との相互訪問事業は、日本全国知事会とアメリカ合衆国全米知事会との合意に基づき、1962年（昭和37年）に始められ、爾来日本とアメリカで交互に実施されてきたが、本年度でまさに満30年を閲することとなる。このような相互訪問は、我々両国民間の友好と協力の発展に大いに貢献してきた。

相互訪問事業の主要な内容は、日米知事会議の開催、日本都道府県及びアメリカ各州における行政、産業、文化の実情視察、日米両国の政府要人との会見等であった。

本年は、アメリカ知事団は、日本全国知事会の招待により、全米知事会を代表して、11月15日から22日まで日本を訪問し、17日に東京・都道府県会館で開かれた第21回日米知事会議に出席した。

この会議において、双方の出席者は「日米親善の推進について」を議題として、友好的雰囲気の中で真剣かつ活発な討議を行った。この議題は、両国各都道府県及び各州の積極的な対応を迫られている今日の重要な課題として、会議に全くふさわしいものであった。

双方の会議出席者は、日米両国民の間の相互理解と友好親善を深め、両国間の文化、経済交流を発展させる上で、県州レベルの行政指導者が果たしている重要な役割を指摘するとともに、貿易、経済、教育、文化、スポーツ、青少年、姉妹提携等地域レベルでの両国民間の円滑な交流・協力を今後とも推進していくことに意見の一致を見た。

アメリカ知事団一行は、日本滞在中、東京で日本の政府指導者と会見するとともに、東京都、京都府、秋田県を歴訪して、それぞれの知事と会見、懇談し、行政、産業、文化の実地視察を行い、地域住民と親しく接触する機会を持つこととなっている。

本日、東京のこの場所で会合した日米両国知事は、府県及び州行政の

最高責任者としての両国知事の相互訪問が、両国国民間の友好の増進に大きな寄与をし続けるとともに、世界の平和と協調という目的を押し進めるものであることを確認する。我々は、今日の相互依存の世界における両国知事のグローバルな責任を認識する。よって我々は、この相互訪問事業を今後も継続し、発展させて行くため、ともに努力することを誓う。

1992年11月17日

日本・東京

第21回日米知事会議

(2) 英 文

JOINT STATEMENT (draft)

The mutual exchange visits between Japanese Prefectural Governors and American State Governors were inaugurated in 1962 by an agreement between the National Governors' Association of Japan and the National Governors' Association of the United States, and have since taken place alternately in Japan and in the United States for just thirty years. Such exchange visits have greatly helped to expand friendly relations and cooperative efforts between the peoples of our two countries.

The joint program has included implementation of the Japan-United States Governors' Conference, tours of inspection of government administration, industry and culture in a variety of Japanese prefectures and American states, and meetings with national leaders of both nations.

This year an American gubernatorial delegation representing the U.S. National Governors' Association visited Japan from November 15 to 22 at the invitation of the Japanese National Governors' Association and has participated in the 21st Japan-U.S. Governors' Conference held at the Todofuken Kaikan, Tokyo, on November 17.

At the Conference the participants from both countries adopted as the conference subject "Promotion of Friendship between Japan and the United States" and engaged in serious and lively

discussions in a friendly atmosphere. The topic was a very opportune one in that it was a task both Japanese prefectures and American states are asked to address aggressively today.

The participants at the conference from both sides stressed the key role the administrative leaders on the prefectural and state levels are playing in deepening mutual understanding and friendship between the peoples of Japan and the U.S. and in furthering cultural and economic exchanges. And they agreed that active exchanges and cooperative endeavors on the regional levels between the two peoples in various fields of activity, including international trade, economy, education, culture, sports, youth activities and sister prefecture-state affiliations, should continue to be encouraged.

During their stay in Japan, the American delegation members are expected to meet with leading officials of the Japanese National Government and to visit the Prefectures of Tokyo, Kyoto and Akita. This will provide them with an opportunity to meet and talk with the Governors of the respective prefectures, to make an on-the-spot observation of regional administration, industry and culture and to become better acquainted with the Japanese people through personal contact.

The Governors of Japan and of the United States, meeting here in Tokyo today, do affirm that the exchange visits of the Japanese and American Governors as the chief executives of

respective prefectures and states continue to make a great contribution to cultivating friendship between our two peoples while advancing the goals of world peace and cooperation. We recognize our global responsibilities in today's interdependent world. we therefore pledge our best efforts to continue to develop further our mutual program of exchange visits into the future.

November 17, 1992 Tokyo, Japan

The Twenty-First Japan-United States Governors' Conference

6 閉 会 挨拶

① 荒巻京都府知事

閉会に当たり、日本側を代表してご挨拶を申し上げます。

皆様、本日は大変ご熱心にご討議いただき、お陰様で極めて実りのある会議となりまして心から嬉しく存じております。

今日の会議によりまして、日米双方の友好親善あるいは交流の必要性に対する認識は一層深まったと確信いたしますとともに、日米知事の相互訪問が今後とも長く続けられていくことを心から期待しているものであります。

また、アメリカあるいはミネソタ州の地方制度の実情につきましているいろいろ有効なお話し合いをさせていただきましたことも、大変嬉しく感謝申し上げます。

明日の午後、私どもの京都へお出でいただくことになっておりまして大変光栄に存じお待ちしております次第でございます。

最後に、この日米知事会議の一層の充実と発展、ご出席の皆様のいよいよのご活躍とご健勝をお祈り申し上げまして閉会のご挨拶とさせていただきます。

② カールソン・ミネソタ州知事

ありがとうございます。公式なステートメントを読むのは、大変居心地悪く感じておりますので、インフォーマルなコメントをさせていただきたいと思っております。

今回の訪日は素晴らしい経験でした。特に、皆様にご親切にいただき感謝しております。日本の政府指導者、知事の皆様、経済界の指導者、業界団体の皆様から温かいご歓迎をいただきました。私どもこの経験から多くのことを学びアメリカへ戻ります。しかし、残念なこともあります。それはアメリカ側知事の出席が少ないということ、私は大変

悲しく思っております。また、私どもが認識していない潜在力があるということを残念に思います。それは、友好をこれからも交流し続けたいというその潜在力です。世界はもっと多くのことを私たちに期待しております。世界は私どもが選出されたものとして、また、責任のあるものとして、これから10年、20年、30年、40年先の世界の課題を決めることを、私どもに期待しております。日本が将来を見据えて計画をすることを期待しております。

私は、この会議がもっと長いものになることをご提案したいと思えます。もし、よろしければ、討議すべき特定のテーマを決めていきたいと思えます。今回の会議の中で、一番面白かったのは、質疑応答の時間だったと思えます。お互いに自由に討議をしました。例えば、高齢者問題をどうするのか、産業廃棄物、汚染、環境問題をどうするのか、共通の問題で色々なテーマがあると思えます。京都、あるいは東京都、あるいはミネアポリスでも、ニューヨークでも、ストックホルムでも、パリでも、上海でも、誰にでも同じ影響を及ぼす問題でもあります。世界の二大経済大国の指導者として、世界は我々にリーダーシップを発揮することを期待していると思えます。我々が示すことのできるリーダーシップであります。

日本全国知事会の皆様、次回の日米知事会議がアメリカで開かれますので、私は全米知事会を代表して、是非、皆様にアメリカへ1994年にいらっしゃることを、心からご招待申し上げたいと思えます。

全米知事会は、第22回日米知事会議を主催したいと思っております。そして、私はアメリカの知事にももっと真剣にその責任をまっとうしてもらいたいと思っております。是非、アメリカの知事も出席してもらいたいと思えます。そして、このように座って意見を交換したいと思えます。いろいろな問題をどう解決するのか、お互いの市民に影響を及ぼす問題について話し合いたいと思えます。貿易について、あるいは安全保

障について、クリントン政権について、将来は、日本の新しい政権についても、また話し合うことがあるかも知れませんが、大変面白いと思います。輸送、鉄道、地下鉄、日本でも、アメリカでもいろいろな問題があると思います。

今日の昼食会の時、鈴木知事さんと東京都の話をさせていただきました。大変面白かったと思います。私どものミネアポリスでもいろいろな環境の改善に努力をしておりますが、東京で達成されたことに比べますと、我々はまだ遅れていると思います。日本に来ていろいろ皆様の話を聴いて、勉強して、そして、その経験を持って米国へ帰りたいたいと思っております。いろいろなことを勉強しました。しかし、一番の教訓はもっと頻繁にお互いに会う必要があると言うことだと思います。皆様のご親切に感謝いたします。ありがとうございました。

〔付 録〕

アメリカ州知事団滞在日程

アメリカ知事団滞在日程

(1) 概 要

月 日 (曜)	滞在都府県	行 事・交 通 機 関 等	宿 泊
平成 4 年 11 月 15 日 (日)	東 京 都	15 : 48 新東京国際空港着 (AA 61) コーワン全米知事会部長 17 : 10 新東京国際空港着 (JL954) ミネ ソタ州知事一行	帝 国 ホ テ ル (東京都)
11 月 16 日 (月)	東 京 都	午前 アメリカ大使館表敬訪問 午後 日本貿易振興会訪問 夕 ミネソタ州知事主催レセプション (東京アメリカンクラブ)	帝 国 ホ テ ル (東京都)
11 月 17 日 (火)	東 京 都	午前 東京都知事敬訪問 (東京都庁) 昼 東京都知事主催昼食会 (ホテルニューオータニ) 午後 第 21 回日米知事会議 (都道府県会館) 夕 アメリカ大使公邸表敬訪問 全国知事会会長主催レセプション (帝国ホテル)	帝 国 ホ テ ル (東京都)
11 月 18 日 (水)	東 京 都 京 都 府	午前 通商産業大臣表敬訪問 昼 日本貿易振興会主催昼食会 (全日空ホテル) 午後 外務政務次官表敬訪問 自治大臣表敬訪問 16 : 00 東京駅発 (新幹線 ひかり 249 号) 18 : 36 京都駅着	都 ホ テ ル (京都府)
11 月 19 日 (木)	京 都 府	午前 京都府知事表敬訪問 (京都府公館) 金閣寺参観 午後 京都ハンデクラフトセンター視察 平安神宮視察 夕 京都府知事主催招宴 (都ホテル)	都 ホ テ ル (京都府)
11 月 20 日 (金)	京 都 府 秋 田 県	08 : 16 大阪空港発 (JD781) 09 : 35 秋田空港着 午前 県林業技術センター視察 ミネソタ州立大学機構秋田校視察 午後 秋田県知事表敬訪問 (秋田県庁) 夕 ミネソタ州知事歓迎夕食会 (秋田キャッスルホテル)	秋 田 キ ャ ッ ス ル ホ テ ル (秋田県)
11 月 21 日 (土)	秋 田 県	午前 秋田県高度技術研究所視察 男鹿半島視察 夕 秋田県知事・議長主催招宴 (あきたくらぶ)	秋 田 キ ャ ッ ス ル ホ テ ル (秋田県)
11 月 22 日 (日)	秋 田 県 東 京 都	12 : 20 秋田空港発 (NH874) 13 : 20 羽田空港着 19 : 00 新東京国際空港発 (NW 10) ミネソタ州知事夫妻帰国 19 : 05 新東京国際空港発 (AA 60) コーワン全米知事会部長帰国	

(2) 日 別

第 1 日 11 月 15 日 (日)

(東京都)

発着時刻	発 着 地	交通機関	行 事
15 : 48	新東京国際空港着	AA 61	シャリリン・W・コーワン 全米知事会部長
17 : 10	新東京国際空港着	JL 954	ミネソタ州知事一行 アーニー・H・カールソン ミネソタ州知事 スーザン・カールソン 同夫人 ピーター・ジレット ミネソタ州貿易・経済開発局長 スコッティ・ジレット 同 夫 人 ジョージ・クローリック ミネソタ州政府貿易局代表 メリー・トマス ミネソタ州知事秘書 イレーヌ・ラトガーズ ミネソタ州政府貿易局対日貿易部代表
18 : 00	同 上 発	バ ス	歓迎式 (空港特別待合室 北ウイング 8・9号室 17:30~17:55) 出席者 砂子田 隆 全国知事会事務総長 柳田 躬嗣 同 渉外部長 石場 雅美 同 総務部副部長 宮崎 和子 ミネソタ州政府貿易局駐日代表事務所ほか
19 : 25	帝国ホテル着		出迎え 峯島 巖 全国知事会事務局次長 岩本 廣幸 同 渉外部副部長 山下 宏 ミネソタ州政府貿易局駐日代表ほか 事務総長招待夕食 (本館 中2階 フランス料理「セゾン」20:00~22:00) 出席者 シャリリン・W・コーワン 全米知事会部長 砂子田 隆 全国知事会事務総長 峯島 巖 同 事務局次長 柳田 躬嗣 同 渉外部長 岩本 廣幸 同 渉外部副部長ほか

(帝国ホテル泊)

第2日 11月16日(月)

(東京都)

発着時刻	発着地	交通機関	行 事
09:30	帝国ホテル発	バス	表敬訪問(09:50~10:40) マイケル・アーマコスト駐日アメリカ大使夫妻等と面会
09:45	アメリカ大使館着		
10:45	同上発	バス	視 察
11:30	アサヒビール着		
13:30	同上発	バス	訪 問
14:00	日本貿易振興会		
15:00	同上発	バス	テレビ録画取り(15:30~16:00)
15:30	帝国ホテル着		
17:30	同上発	バス	ミネソタ州知事主催レセプション(18:30~21:00) 出席者 アメリカ知事団一行 砂子田 隆 全国知事会事務総長 峯島 巖 同 事務局次長 柳田 躬嗣 同 渉外部長ほか
18:30	東京アメリカン クラブ着		
21:00	同上発	バス	
21:30	帝国ホテル着		
			<p>シヤリリン・W・コーワン全米知事会部長</p> <p>11:15 帝国ホテル発(乗用車)</p> <p>11:30 都道府県会館着 全国知事会表敬訪問・日米知事会議打合せ</p> <p>13:00 同上発(乗用車)</p> <p>13:05 ホテルニューオータニ着 昼食(タワー40階 コンチネンタル料理「バルゴ」) 出席者 砂子田 隆 全国知事会事務総長 柳田 躬嗣 同 渉外部長ほか</p> <p>14:30 同上発(乗用車) 都内視察 三省堂書店神田本店、山野楽器本店、 東京鳩居堂</p> <p>17:00 帝国ホテル着</p> <p>18:00 同上発(乗用車)</p> <p>18:30 東京アメリカンクラブ着 ミネソタ州知事主催レセプション</p> <p>20:15 同上発(乗用車)</p> <p>20:30 帝国ホテル着</p>
			(帝国ホテル泊)

第 3 日 11 月 17 日 (火)

(東京都)

発着時刻	発着地	交通機関	行 事
06:00 10:10 10:45	帝国ホテル発 東京都庁着	バス	テレビ録画取り (帝国ホテル 06:00~08:00) 鈴木俊一東京都知事表敬訪問 (7階 知事特別応接室 11:03~11:15) 同席者 金平 輝子 副知事 井上修一郎 労働経済局長 中村 實宏 外務長 高木 祥勝 国際部長ほか
11:35 12:00	同上発 ホテルニューオータニ着	バス	砂子田 隆 全国知事会事務総長 都庁舎視察 (45階 展望台 11:16~11:27) 鈴木俊一東京都知事主催昼食会 (ガーデンコート ロビー階 「千羽鶴」 12:05~13:30) 同席者 金平 輝子 副知事 砂子田 隆 全国知事会事務総長
13:39 13:50	同上発 都道府県会館着	バス	(別館 2階 談話室にて休息) 第 21 回日米知事会議 (別館 211 号会議室 14:00~16:12) アメリカ知事団夫人プログラム (カールソン夫人、ジレット夫人、トマス秘書) 同行者 宇田川美子主事
16:40 17:30 18:30 19:00	同上発 アメリカ大使公邸着 同上発 帝国ホテル着	バス バス	13:50 都道府県会館発 (乗用車) 14:00 千代田区立永田町小学校着 説明案内 西村美奈子 教頭 15:00 同上発 (乗用車) 都内視察 (渋谷区・原宿・オリエンタルバザー) 16:30 都道府県会館着 ミネソタ州知事一行表敬訪問 鈴木俊一全国知事会会長主催レセプション (本館 2階 「蘭の間」 19:00~20:30) 出席者 鈴木俊一全国知事会会長夫妻 (東京都) 荒巻禎一全国知事会副会長 (京都府) 北村正哉知事 (青森県) 佐々木喜久治知事夫妻 (秋田県) 小寺弘之知事 (群馬県) 竹内藤男知事 (茨城県) 穂積良行 自治政務次官 久世公安 参議院議員 澤井安夫 自治省企画室長 井辺尚美 通産省米州課市場専門官 前川尚美 自治体国際化協会専務理事 ロバート・C・リース 参事官夫妻 チャールズ・H・ウォルシュ 一等書記官夫妻 砂子田隆 全国知事会事務総長 峯島文一 同事務局次長 矢野文正 同調査第一部長 仲道得三 同調査第二部長 西澤躬典 同研究室長 柳田中迪 同渉外部長 代理 (帝国ホテル泊)

第4日 11月18日 (水)

(東京都・京都府)

発着時刻	発着地	交通機関	行 事
10:17	帝国ホテル発	バス	
10:42	通商産業省着		渡部恒三通商産業大臣表敬訪問(10:50~11:02) 同席者 岡松壯三郎 通商政策局長 小平 信因 米州課長 井辺 國夫 米州課市場専門官 太田 芳江 生活産業局住宅産業課長 肥塚 雅博 大臣秘書官 砂子田 隆 全国知事会事務総長 岡松壯三郎通商政策局長等との懇談(11:08~11:33)
11:40	同上発	バス	
11:50	東京全日空ホテル着		日本貿易振興会主催昼食会 (3階 中華料理「花梨」12:00~13:40) 出席者 小島 幹生 理事(ホスト) 岩本 守 輸入促進部長 砂子田 隆 全国知事会事務総長ほか
13:45	同上発	バス	
14:10	外務省着		柿澤弘治外務政務次官表敬訪問(14:16~14:45) 同席者 小澤 俊朗 北米第一課長
14:47	同上発	バス	
14:50	人事院ビル着		塩川正十郎自治大臣表敬訪問(14:57~15:15) 同席者 門山 泰明 秘書官 砂子田 隆 全国知事会事務総長
15:20	同上発	バス	
15:35	東京駅丸の内 中央口着		
16:00	東京駅発	新幹線ひかり 249号	
18:36	京都駅着		出迎え 奥原 恒興 京都府企画推進局企画政策課長 黄瀬 謙治 同 主幹ほか
18:50	同上発	バス	
19:22	都ホテル着		夕食(3階 中国料理「四川」 20:15~21:45) (都ホテル泊)

第5日 11月19日(木)

(京都府)

発着時刻	発着地	交通機関	行事
10:15 10:30	都ホテル発 京都府公館着	バス	荒巻禎一京都府知事表敬訪問 (第二応接室 10:35~10:55) 同席者 大宮 正 副知事 倉林 公夫 企画推進局長 小堀 脩 商工部長 奥原 恒興 企画推進局企画政策課長 安田 冠 同 参事 藤沢 実 同 主任ほか 〔通訳〕 室崎美弥子 国際課推進係
11:05 11:20	同上発 金閣寺着	バス	視察 案内者 藤井 義雄 事務長
12:01 12:16	同上発 京都ブライトンホテル着	バス	昼食(1階 鉄板焼「ひもろぎ」12:20~13:30)
13:35 13:47	同上発 京都ハンデクラフトセンター着	バス	視察 案内者 池口 喜秋 専務・事務長
15:35 15:38	同上発 平安神宮着	バス	視察(扶茶接待) 案内者 万沢 正典 権禰宜
16:30 16:40	同上発 都ホテル着	バス	荒巻禎一京都府知事主催招宴 (4階 「稔りの間」 17:40~19:18) 出席者 荒巻 禎一 知事夫妻 大宮 正 副知事 倉林 公夫 企画推進局長 小堀 脩 商工部長 奥原 恒興 企画推進局企画政策課長 岩田 均 商工部観光・商業課長 安田 冠 企画推進局企画政策課参事ほか

(都ホテル泊)

第 6 日 11 月 20 日 (金)

(京都府・秋田県)

発着時刻	発着地	交通機関	行 事
06:07 06:58	都ホテル発 大阪空港着	バス	見送り 奥原 恒興 京都府企画推進局企画政策課長 見送り 黄瀬 謙治 京都府企画推進局企画政策課主幹 休憩、朝食(日本エアシステム貴賓室 07:25~08:08)
08:16 09:35	同上発 秋田空港着	JD 781	出迎え(空港特別待合室 09:35~09:45) 出席者 池田竹二郎 秋田県副知事 長江 孝美 企画調整部長 佐々木 和雄 企画調整課長 根津谷 礼蔵 国際交流室長ほか 伊藤 憲一 雄和町長 諸星 裕 ミネソタ州立大学機構秋田校学長
09:57 10:06	同上発 県林業技術センター着	乗用車・バス	視察 説明者 長嶋 朝雄 所長
10:50 11:00	同上発 トレーニング・セ ンター着	乗用車・バス	
11:08 11:12	同上発 ミネソタ州立大学 機構秋田校着	乗用車・バス	大学施設視察～献堂式～植樹式～昼食 出席者 ミネソタ州立大学機構 テレンス・J・マクタガート 総長 リンダ・B・ジョーンズ 副総長 クリステイン・ロバーツ 総長補 諸星 裕 秋田校学長 伊藤 憲一 雄和町長ほか
13:20 13:59	同上発 秋田県庁着	乗用車・バス	佐々木喜久治秋田県知事表敬訪問 (第一応接室 14:02~14:25) 同席者 伊藤 憲一 雄和町長 諸星 裕 ミネソタ州立大学機構秋田校学長 〔通訳〕喜多川 明 国際交流室 ミネソタ州知事記者会見(特別会議室 14:30~14:47)
15:00 15:06	同上発 秋田キャッスル ホテル着	乗用車・バス	ミネソタ州知事歓迎夕食会 (4階「放光の間」18:32~20:30) 主催 秋田県、雄和町、ミネソタ州立大学機構秋田校教育振興会 参集者 約 300 名 ＜秋田県＞ 知事、同夫人、副知事、同夫人、出納長、同夫人、教育長、 総務部長、企画調整部長、福祉保健部長、生活環境部長、 農政部長、林務部長、商工労働部長、土木部長、公営企業管 理者、県警本部長、企画調整部次長、企画調整課長、 国際交流室長ほか ＜県議会＞ 議長、同夫人、副議長、同夫人、県議会議員、 議会事務局長ほか ＜雄和町＞ 雄和町長、町議会議員ほか ＜その他＞ ミネソタ州立大学機構秋田校教育振興会関係者、 21委員会、(社)秋田青年会議所、21の翼訪問団員 (秋田キャッスルホテル泊)

第7日 11月21日(土)

(秋田県)

発着時刻	発着地	交通機関	行 事
09:05	秋田キャッスル ホテル発	バス	随行者 簾内 絢一 秋田県企画調整部次長 根津谷礼蔵 秋田県企画調整部国際交流室長 ウエスリー・シャーロット 国際交流員 テレンス・J・マクタガート ミネソタ州立大学機構総長 諸星 裕 同秋田校学長ほか
09:20	秋田県高度技術 研究所着		視察 説明者 大内 一弘 所長
10:33	同 上 発	バス	男鹿半島視察
11:49	桜島荘着		昼食(桜島荘 12:00~13:00)
13:12	同 上 発	バス	
15:00	秋田キャッスル ホテル着		
18:50	同 上 発	乗用車	
18:55	あきたくらぶ着		秋田県知事・議長主催招宴 (あきたくらぶ大広間 19:00~20:47) 出席者27名 <ul style="list-style-type: none"> <ミネソタ州立大学機構> テレンス・J・マクタガート 総長 リンダ・B・ジョーンズ副総長 諸星 裕 秋田校学長 <秋田県> 知事、同夫人、副知事、出納長、総務部長、企画調整部長、 商工労働部長ほか <県議会> 議長、副議長ほか <雄和町> 雄和町長
20:57	同 上 発	乗用車	
21:00	秋田キャッスル ホテル着		

(秋田キャッスルホテル泊)

第 8 日 11 月 22 日 (日)

(秋田県・東京都)

発着時刻	発着地	交通機関	行 事
10:47	秋田キャッスル ホテル発	乗用車・バス	途中下車して新築中の木造家屋群を視察
11:27	秋田空港着		見送り(空港特別待合室) 佐々木喜久治 秋田県知事 池田竹二郎 副知事 長江 孝美 企画調整部長 根津谷礼蔵 国際交流室長 伊藤 憲一 雄和町長 諸星 裕 ミネソタ州立大学機構秋田校学長ほか
12:20	秋田空港着	NH 874	
13:20	羽田空港着		出迎え 砂子田 隆 全国知事会事務総長 岩本 廣幸 同 渉外部副部長ほか
13:45	同 上 発	乗用車	
13:50	羽田車急ホテル着		事務総長招待 昼食(1階 天ぷら「天松」 14:05~14:57) 同席者 シャリリン・W・コーワン 全米知事会部長ほか
15:00	同 上 発	乗用車	~都内視察(浅草仲見せ、浅草寺等)~
17:30	新東京国際空港着		見送り(空港特別待合室 北ウイング 4階 6号室) 峯島 巖 全国知事会事務局次長 柳田 躬嗣 同 渉外部長 岩本 廣幸 同 渉外部副部長ほか 山下 宏 ミネソタ州政府貿易局駐日代表
19:00	同 上 発	NW 10	ミネソタ州知事夫妻ホノルル経由帰国
19:05	同 上 発	AA 60	シャリリン・W・コーワン全米知事会部長帰国